

【市議会最前線】バリアフリーから主権者教育まで～議場モニターも活用～＝北九州市議会(福岡県) 26/07/01 08:00 Nf001

多くの議会が直面する「若者の政治離れ」と「議会のバリアフリー化」。北九州市議会では、この二つの課題を別々のものとして捉えるのではなく、議場設備の整備を契機として体系的な解決を目指しています。今回は、議場モニターを活用した本市議会の取り組みを紹介します。

本市議会では、聴覚障害のある方への傍聴支援として、令和6年9月から傍聴席モニターによる字幕表示を開始しました。発言内容をリアルタイムで文字化することで、誰もが議会審議を理解しやすい環境づくりを進めています。

こうした設備は、バリアフリー化にとどまらず、主権者教育にも活用しています。令和8年5月には、子ども向けアニメーション動画「みんなでつくろう！わたしたちのまち～市議会の仕組みと制度を知ろう～」を制作しました。議場見学に訪れた小学生は、実際に議員が座る議場の雰囲気を感じながら、傍聴席モニターで動画を視聴します。「本物の場所」で「分かりやすい映像」に触れることで、市議会の役割やまちづくりとの関わりを自然に学ぶことができます。



市議会の役割を子どもたちに分かりやすく伝えるアニメーション動画を視聴する小学生

また、選挙管理委員会と連携し、本物の投票箱などを使用した模擬投票も実施しています。議場という実際の意思決定の場を見学し、さらに投票を体験することで、子どもたちは「自分たちの一票が社会を動かす」という民主主義の仕組みを実感します。単なる知識の習得にとどまらず、将来の投票行動につながる主権者教育としても期待されています。

さらに、令和8年度には議場前面への大型モニター設置(2台)を予定しています。字幕表示に加え、資料や図表を共有することで、傍聴者にとって一層分かりやすい議会運営を目指しています。平成17年から実施している中学生による模擬議会「北九州ドリームサミット」などにおいても、資料や映像を活用し、議場を学びの場として一層充実させていく考えです。

議場設備の改修には大きな費用を伴います。だからこそ本市議会では、「誰もが参加しやすい議会」を実現するバリアフリーと、「未来を担う人材を育む主権者教育」の両輪で、その価値を最大限に高めていきたいと考えています。今後も、市民に開かれた議会づくりを進めるとともに、議場の新たな可能性を追求してまいります。(了)